

オオカミ

Canis lupus (Linnaeus)

ネコ目イヌ科

石川県カテゴリー 絶滅

国カテゴリー 絶滅

選定理由

近年まで生存していたものの、現在では絶滅したとされている。

形態

全体に灰褐色から黒褐色の色をしている。尾が太く房状をしていること、歯は切歯、犬歯、小臼歯（裂肉歯）、大臼歯が明瞭に分かれ、イヌ科の他の動物と似ているが裂肉歯が大きいことで区別できる。頭胴長95～114cm、尾長30cmが記録されている。

国内分布

かつて、北海道にはエゾオオカミ、本州、四国、九州にはニホンオオカミが生息した。エゾオオカミは1800年代に絶滅したと推定されており、ニホンオオカミは1905年に奈良県鷲家口での捕獲が最後で、現在生息の確認はない。

県内分布

150年前までは金沢周辺から、能登半島、白山麓にかけて生息していたとの話がのこされており、県内に広く分布していたものと思われる。また、県立七尾高等学校にニホンオオカミの毛皮の標本が残されている。

生態

他のイヌ科動物と同様、繁殖期には雄雌1対の家族集団を作り、子供を育てる。通常は、群れをなし、シカ、イノシシなどの草食動物を襲う。

参考文献

阿部 永・石井信夫・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明 1997. 日本の哺乳類. 東海大学出版会. pp195.
千葉徳爾 1993. 金沢に出没!!ニホンオオカミ. はくさん87. 石川県白山自然保護センター. p2-7.

写真（図）はありません。

分布図はありません。

県内の分布